

2021年3月期第1四半期 決算電話会議 質疑応答要旨

日時：2020年8月7日（金） 11：30～12：00

お断り：この要旨は、決算電話会議にご出席になれなかった方々の便宜のためにご参考として掲載するものであり、電話会議でお話したことの一字一句を書き起こしたものではありません。当社の判断で簡潔にまとめさせていただきました。ご了承ください。

- Q. 国内の薬品がそれほど大きな減収になっていないが、業種別の状況を教えてほしい。
- A. 電子産業については一桁%のマイナス、自動車については2-3割のマイナス、鉄鋼は2割程度のマイナス、石油も1割を超えるマイナスだが、食品とその他の内陸市場はそれほどの落ち込みはない。
- Q. 電子産業向けのメンテナンスについては、国内で一部延期があったとのことだが、海外で延期はなく進捗は良かったという理解でいいか。
- A. 進捗は良かったと見ている。
- Q. 海外メンテナンスが堅調な背景としては、既存顧客の工場稼働が順調なのか、顧客層が広がっているのか。
- A. 既存顧客の稼働が順調である。
- Q. コロナ影響について、セグメント別に分けて教えてほしい。
- A. 受注高影響▲40億円、売上高影響▲30億円のうち、薬品が過半を占めている。
- Q. 海外薬品の状況について、1Qの後半や2Qにかけて回復の兆しは見られるか。
- A. 4-5月は確かに厳しかったが、6月以降回復の傾向が見えている訳ではない。2Qについても、上向いていくというところまでは見ていない。
- Q. 海外薬品の地域別の状況や市場別の状況はどうだったか。
- A. 米国は、石油需要低迷の影響を受けるエタノール向けをはじめ、コロナの影響も含めて厳しい。
- Q. 電子産業向けでは、中国における延伸のようなものは今後も残るのか。
- A. ここまで遅れている案件も、これから出てくると見ている。
- Q. 薬品事業が減収の中でも事業利益を改善できた要因を具体的に教えてほしい。また、2Q以降も1Qと同程度の事業利益率水準を見込めるか。
- A. コスト面でグローバル調達を進めたことが原材料コストの削減につながったほか、間接製造経費の削減もあった。2Qについても同様の効果があると見込んでいる。

- Q. 薬品事業において買収してきた会社とのシナジーが出てきたということはあるか。
- A. まだそこまでには至っていないが、調達面での連携はできてきた。機能統合の効果も一部にはあったと思う。
- Q. 1Qの実績は堅調だったが、2Q以降に懸念事項はあるか。
- A. 現時点で懸念していることはない。
- Q. ここまで行ってきた買収の結果、のれんが564億円あるが、コロナ影響による厳しい環境下で今期に減損が発生する可能性はあるか。
- A. 現状で大きな懸念はない。

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により異なる可能性があります。